

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ケニア共和国

イララマタク地域開発プログラム(KEN-182381)



支援を受けて早婚のリスクを学んだティパロちゃん(右、14歳)

チャイルドストーリー

教育の重要性に気づき、 学校に通い勉強を続ける子どもが増えつつあります

ティパロちゃんが暮らすイララマタク地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域では、以前は子どもに教育を受けさせることの重要性を理解する大人は多くありませんでした。学校の設備が整っていないこともあり、小学校に入学しても家事の手伝いや早婚を理由に中退してしまう子どもが多かったです。

しかし、ADPの支援が始まってから、学校設備の整備とともに教育の重要性についての啓発活動が行われ、地域の人々の間で子どもを学校に通わせるのは大切なだと認識されるようになりつつあります。家事労働や早

婚のために学校を中退させられる子どもは減ってきています。

ティパロちゃんも支援を受けて早婚のリスクを学び、学校に通って勉強を続けています。「ADPの支援が始まる前は、『勉強は大切だから続けなさい』と励ましてくれる大人はいませんでした。でも支援が始まって地域は大きく変わりました」と話すティパロちゃん。子どもが教育を受けて持てる能力を伸ばし、将来への可能性を広げることができるよう、地域での取り組みが続いています。

教育プロジェクト

子どもたちが小学校でよく学び、その先の未来へと向かえるよう後押ししています

2014年度は地域の小学校2校に新たな教室を建設しました。この支援により、これら2校に入学した児童の数は2013年度の529人から671人に増加しました。ADPが教室建設や机、イスなどを支援した小学校では、小学校を卒業するための全国統一試験において、平均点の向上が見られます。

また588人の小学生に対して、イララマタク地域出身で大学まで進学した先輩や宗教指導者から、勉強を続けることの大切さを語ってもらい、より多くの子どもたちが小学校を卒業し、高校、大学、職業訓練校などに進学できるよう励ましました(ケニアでは小学校8年間の後、高校4年間が続きます)。



小学校**2校**に新たな教室を建設



支援を受ける前の小学校の教室



支援後の教室

保健衛生プロジェクト

ますます多くの子どもたちや妊産婦に保健サービスが届き始めています

ADPはこれまで診療所の建設のほか、巡回診療の実施、村落保健ボランティアによる子どもたちの健康管理、親への啓発活動などを行ってきました。これらの結果、2歳未満児の予防接種率は2013年度の39.9%から73.8%へ、妊婦の産前健診受診率は7.0%から22.6%へ、妊婦のHIV検査受診率は8.4%から53.4%に向上しました。また、寄生虫

の駆除を受けた5歳未満児の割合は、2013年度の17.0%から72.2%へ大幅に増加しました。まだ改善の必要はありますが、確実に成果が見られます。

また、2014年度も「世界手洗いの日」（毎年10月15日）に649人の小学生が衛生教育を受け、学校内には簡易の手洗い場が設けられました。



ADPの支援により建設された診療所は子どもたちの健やかな成長に貢献しています



衛生教育で手洗いの大切さを学び、実践する子どもたち



2歳未満児の予防接種率 **39.9%**(2013年)→**73.8%**(2014年)



支援地域の女性のストーリー

支援によって女性が夢を持てるようになりました

Q.ADPのどのような活動に参加していますか。

保健委員会のメンバーとして、診療所建設の計画作りに参加しました。また、教育委員会のメンバーとして、学校の教室建設の場所を決める議論に参加しました。

Q.支援によって地域にどのような変化がありましたか。

以前は医療サービスを受けるために遠くまで歩かなければなりませんでした。診療所ができ、地域内で治療を受けることができるようになりました。また、教室が増設される前は、木の下で勉強しなければならない子どもたちも多くいましたが、新しい教室が完成し、室内で勉強できる子どもが増えました。教育の重要性が認識されるようになり、学校に入学する子どもの数も増えています。

Q.今の夢を教えてください。

地域にもっと教室が増え、教師による授業の質が改善し、入学率と子どもの成績も上がることを願います。また、早婚により子どもたちが退学することがない地域になればと思っています。



地域で保健委員会と教育委員会のメンバーを務めるナラングさん(40歳)



ADPスタッフ・インタビュー

Q.どのような仕事をしていますか。

支援地域に住むチャイルドを定期的に訪問し、毎日学校に通い、健康に成長しているかを確認しています。チャイルド・スポンサーと子どもたちの手紙の交流を支援したり、地域の人々がADPの研修や活動に参加するよう促すのも私の仕事です。

Q.2014年にいちばん困難だったことは何ですか。

2014年は干ばつにより牧草地が被害を受けました。イララマタク地域に住む多くの人々は牧畜を営んでいますが、干ばつの影響で牧草を求めて遠くまで移動する家族が多く、子どもたちも家族と一緒に移動するので、追跡して健康状態などを調査するのが大変でした。時には半年くらい移動を続ける家族もあり、その間子どもたちは学校に通えないことも深刻な問題です。

Q.ワールド・ビジョンで働く原動力となっているものは何ですか。

私自身この地域出身なので、地域への愛着があります。今はまだ開発が遅れていますが、子どもたちが元気に過ごせる地域へと発展させていきたいと強く願っています。



イララマタクADPスタッフ ロバート・タコナ(28歳)。オートバイで支援地内を移動し、チャイルドを訪問して健康や教育の状態を確認します

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



学校の行事で「子どもたちを学校に通わせて。そうすれば知識を得て素晴らしい人生を送れるから」という歌詞の歌を歌う子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

KEN - 182381

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年9月30日

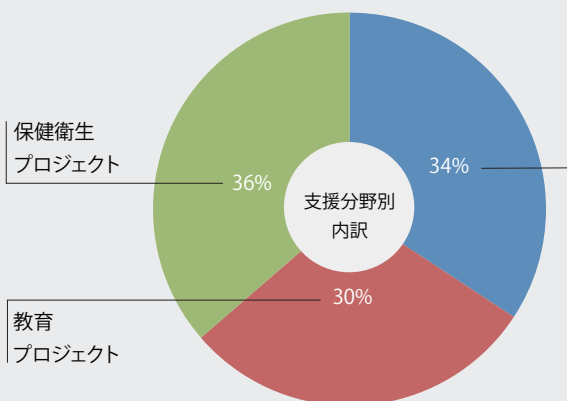
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	37,881,669
当期支援額	37,881,669
前期繰越金	-93,131
プログラム支援額合計	37,788,538

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	12,937,559
教育プロジェクト	11,113,462
保健衛生プロジェクト	13,737,517
プログラム支出額合計	37,788,538
次期繰越額	0

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp